

724人で作り上げた文化祭!



発行所
岡崎市立葵中学校
(電話 21-0171)
(FAX 21-0172)

12月号

学びのすすめ

学びはおもしろい

校長 柴田 昌一

学びの奥深さは、私たちの日常に溢れています。文具店で見かけた「売上ナンバーワン」のはさみの切れ味のよさも、科学の原理が秘められているのです。その秘密は、刃の開く角度が常に三十度に保たれていることにあります。この特殊な設計により、「滑り」と「逃げ」のバランスが絶妙に調整され、どんな状況でも確実に物を切るることができるのです。

このはさみの誕生には、数学者ヤコブ・ベルヌーイの発見が大いに寄与しています。ベルヌーイ螺旋(らせん)の特徴が、刃の開き角度を一定に保つために巧妙に応用されているのです。日常の身近なツールが、数学の原理によって進化する様子は、まさに興味深く、驚きと学びの結びつきですね。

そして、理科の学びも決して教科書の中だけに留まるものではありません。電子マネー、ICカード、電磁調理器など、私たちの生活を支える技術には、理科の知識が欠かせません。二年生で学ぶ電流や磁界といった理科の概念が、私たちの便利で快適な生活を実現しているのです。

学びは一度きりのものではありません。

小さな発見や理解が、将来の大きな喜びや成功につながる可能性があります。興味をもち、探求心を大切に、学びの中には未知の可能性が広がっていることを知ることは、人生をより豊かにする一歩です。

日頃の授業で学ぶ際に、「授業だから仕方がなく勉強している」「高校に行くために仕方なく勉強している」のように、「勉強せざるを得ない」といった思いではなく、学びそのものを楽しむことで、新たな発見や驚きが待っているかもしれません。

自分の学びを一度見つめ直して、その奥深さに驚きと喜びを見出してみませんか。

文化祭

テーマ 「輝け724人の夢」

「全員で作る最高の文化祭」

令和五年十一月二日(木)・三日(金)

全員で作る最高の文化祭

生徒会長

文化祭を実施するまでの間に、いろいろなことがありました。文化祭のテーマ

「全員で作る最高の文化祭」を目指して、自分たちでできることは何か、企画の内容はどうするか、生徒会役員と何度も話し合いを重ねました。実施直前にインフルエンザが流行し、全校生徒が体育館に入ることではできませんでしたが、少しでも他学年とのつながりが感じられる文化祭となるように工夫しました。うまくいかどうか不安な気持ちもありましたが、出演者、係、会場を含めた全員で楽しむことができ、最高の文化祭になりました。

成長できた文化祭

メディア部

僕は文化祭やメディア部での発表を通して、いろいろなことを学ぶことができました。

一つ目は勇気をもつことです。文化祭を通して、全体の場で発表する機会をもらうことができました。発表の際に、友達や

仲間が反応してくれました。もともと、注目を浴びることは苦手でしたが、反応してもらえたことで、ますます集中して発表内容を伝えることができ、勇気が出ました。

二つ目は人との接し方です。特に、リハールの際にはたくさんの人と接することができて、うれしかったです。文化祭で学んだことをこれからの学校生活に役立てていこうと思います。

三年間の活動を通して

科学技術部

一年半前、科学技術部の「自由」に引かれ、僕は入部しました。入部してから同級生や先輩とともに、作りたい物を考えて自分で製作してきました。そして、先輩方の引退後、僕は自ら部活を引っ張りたいと思い、部長になりました。部員をまとめることは大変でしたが、とても「やりがい」を感じることができました。三年生となり、迎えた最後の文化祭ステージではアクシデントも発生しましたが、臨機応変に対応し、盛り上げを生み出すことができました。最後の大会となる一月の「ロボットコンテスト全国大会」でも仲間と試行錯誤して作り上げたロボットで全力を尽くしたいです。

三年間の活動を終えて

芸術部

僕は一年生のときに、今まで挑戦しなかったことをやってみようと思い、芸術部に入部しました。最初はちろんうまく絵を描けなかったけれど、練習していくうちにどんどん上達していく楽しさを感じました。

文化祭では、部員たちと作り上げてきた油絵や似顔絵を、今までの集大成として披露することができました。そして自分たちの作ったもので人を笑顔にできることのうれしさを知ることができました。芸術部で得たものは、僕にとってかけがえのないものになりました。この経験を胸に、これからも物事に対して前向きに取り組んでいきたいです。

三年間の想いを込めて

吹奏楽部

「私たち三年生は、この文化祭で引退となります。」
演奏前のせりふで気持ちが引き締まりました。三年間の部活で学んだ「合奏する楽しさ」「私たちがらしい生き生きとした明るさ」「想いをのせて伝える表



現」を意識し、また、後輩たちに伝えられるように十五分間の演奏を楽しみました。曲中では、三年生全員のソロパートがありました。順番にマイクの前で演奏する仲間の後ろ姿を見て、この仲間と共に三年間成長できたことの喜びと感謝の気持ちで溢れました。三年間で学んだこと、想いを伝えることができた文化祭でした。

●合唱コンクール!!

♪一年生の部

- 最優秀賞 六組「絆」
- 優秀賞 二組「大切なもの」
- 優良賞 五組「変わらないもの」
- 指揮者賞 二組
- 伴奏者賞 五組

♪二年生の部

- 最優秀賞 三組「地球の鼓動」
- 優秀賞 一組「ヒカリ」
- 優良賞 二組「心の瞳」
- 指揮者賞 二組
- 伴奏者賞 一組

♪三年生の部

- 最優秀賞 六組「信じる」
- 優秀賞 一組「言葉の歌」
- 優良賞 五組「リフレイン」
- 指揮者賞 六組
- 伴奏者賞 二組

合唱コンクールを終えて

深めた「絆」

一年六組

初めての合唱コンクール。練習を始めた頃は上手く合わせることができませんでした。しかし、目標として決めた最優秀賞を目指していくにつれて、徐々に気持ちが一つになっていき、曲名でも「絆」を深めることができました。

本番当日は残念ながら全員で歌うことはできませんでしたが、これまで仲間たちと積み重ねてきた練習の成果もあり、最優秀賞をとることができました。

このクラスの指揮者をやる中で築き上げた、仲間たちとの「絆」をこれからも大切にしていきたいです。

二年三組

体育大会を経て、クラスがまとまってきたと感じました。僕にとって唯一無二のクラス。そんなクラスメイと最優秀賞をとりたい。そう決めて練習に臨みました。

しかし、学級全員がそろって歌えない期間があり、なかなか思い通り

宝物

二年三組

体育大会を経て、クラスがまとまってきたと感じました。僕にとって唯一無二のクラス。そんなクラスメイと最優秀賞をとりたい。そう決めて練習に臨みました。

しかし、学級全員がそろって歌えない期間があり、なかなか思い通り

私には二学期で心に残ったことが二つあります。一つ目は、体育大会・文化祭

に練習をすることができませんでした。それでも、みんなで一つ一つ課題を解決していき、完成を目指して練習しました。結果は最優秀賞をとることができました。それ以上に、クラスメイと歌えた合唱は、僕にとって最高の思い出であり、宝物になりました。

仲間を信じる祭

三年六組

私たちのクラスでは、仲間を信じて一人一人が全力を出せる合唱を目指して練習してきました。

しかし、初めはみんなどこかやる気がなく、自分たちの目標を何一つ達成できていませんでした。そんな時、級長を中心に、自分の思いを正直に伝え合ったり、わからないところをお互いに教え合ったりしました。その結果、本番は全員が全力で歌うことができました。

最優秀賞をとることができました。これは、クラスのみんながお互いのことを信じて練習してきたからだと思います。

今回学んだ仲間を信じることを、これからも忘れないようにしたいです。

私には二学期で心に残ったことが二つあります。一つ目は、体育大会・文化祭

に練習をすることができませんでした。それでも、みんなで一つ一つ課題を解決していき、完成を目指して練習しました。結果は最優秀賞をとることができました。それ以上に、クラスメイと歌えた合唱は、僕にとって最高の思い出であり、宝物になりました。

二学期を振り返って

一年七組

私には二学期で心に残ったことが二つあります。一つ目は、体育大会・文化祭

の行事です。どちらも葵中生となって初めての経験で、とても印象に残っています。特に、文化祭での合唱コンクール。私たちは声が少しでも遠くに届くよう何度も練習しました。結果は悔しいものですが、みんなで一生懸命歌えて、よい時間が過ごせました。驚いたのは、二、三年生の歌です。先輩の歌を聞いたとき、心が震えました。声の出し方、体の動きなど全てに圧倒されました。私も上級生になったときに、すごいと思われるようになりたいです。

二つ目は新入戦です。三年生の思いを引き継いで新チームがスタートしました。日々の練習でチームプレーを意識して一生懸命やってきました。しかし、準決勝で負けてしまいました。学年が上がった五月には、総体があります。少しでも上にいけるように、そして来年度の夏、先輩と最高の夏を迎えられるように、この冬を頑張りたいと思います。

この二学期で僕の心に残っていることは、二つあります。

一つ目は体育大会です。リレーの練習のとき、僕は一緒に走る仲間と何度も打ち合わせ、僕の歩数を調整しました。みんなも同じ組の人と励まし合ったり、アドバイスを出し合ったりしながら練習に取り組みました。当日はみんなで一つになって応援することができ、全体の団結力が深まったと思います。

二つ目は合唱コンクールです。どの学級も、リーダーの人たちが指示をした

り、どう歌うのかを話し合ったりしてまとまっていきました。全部のクラスが歌い終わると、他のクラスの人たちと褒め合って仲が深まったと思いました。

三学期になると、スキー研修や卒業を祝う会などの二年生が主体となって動く場面が多くなります。そしてこれから最

高学年になる準備の時期に入っていきます。一人一人が今よりもっと自分に自信をもてるように意識をして努力していきたいと思います。

三年四組

私はこの二学期にたくさんのことに挑戦することができました。

一つ目は級長に挑戦したことです。私は人前で意見を言うことがあまり得意ではありませんでした。しかし、級長になったことでクラスを引っ張っていかなければならないという強い責任を感じ、積極的に声をかけたり、自分から行動したりする機会が増えました。今までは勇気が出ず、ためらってしまうことが多かったのですが、誰かのために行動するという思いやりの心、自分の力でクラスをまとめようとする自立心を培うことができたと思います。これからも、自分の行動や言葉で、困っているクラスメイトを助けたいと思います。

二つ目は体育大会での「葵の舞」です。一年生のときからずっと憧れていた葵の舞をできることがうれしく、リーダーを中心に毎日練習に取り組みました。全員

の気持ちが一つにならず挫折したこと、踊りが揃わず苦戦したこともありましたが、

り、どう歌うのかを話し合ったりしてまとまっていきました。全部のクラスが歌い終わると、他のクラスの人たちと褒め合って仲が深まったと思いました。

三学期になると、スキー研修や卒業を祝う会などの二年生が主体となって動く場面が多くなります。そしてこれから最

高学年になる準備の時期に入っていきます。一人一人が今よりもっと自分に自信をもてるように意識をして努力していきたいと思います。

しかし、当日は自分たちにはかできない全力の葵の舞に挑戦し、見ているたくさんの人に感動を届けることができました。一つの目標に向かって頑張ることで、学年が更に団結し、きれいな花を咲かせることができたと思います。

三学期には将来を決める大切な受験が控えています。それぞれが描く未来へ羽ばたけるよう、一日一日を無駄にせず、目標に向かって日々学習に取り組んでいきたいです。

被災地支援バザーを終えて 知ることの大切さ

三年一組

今年の夏、大規模な台風二号が発生し、全国各地を襲いました。これによる大雨で多くの地域が被害にあったことを知り、私は自分にも何かできることはないかと思ひ、生徒会企画「被災地復興支援バザー」の実行委員になることを決めました。ポスター制作のために被災地のことを調べ、どのくらい被害が大きかったのかを知り、もっと多くの人にこのことを伝えて支援に協力してほしいと、改めて思いました。

これまでに災害に遭った人は多く、今も被害に苦しんでいる人がいます。そのような人を助けるためにも、今後もこのような活動を続けていきたいです。

前期生徒総会を終えて

三年一組

前期生徒総会では、どの委員会の活動報告も分かりやすく、どのようなことを行っていたのかも知ることができました。僕はこの半年間で生徒が主体となっ、何かをする大変さを学びました。しかし、難しいことでも「頑張ろう」「成功させよう」という気持ちで挑み、活動することが大切だと思います。

後期でもより良い学校を作ることができ、張っていききたいです。

今後の予定(一月)



- 一〇日(水) 弁当持ち
- 一日(木) 岡崎学力検査(一・二・三年)
- 二日(金) 給食開始
- 二六日(火) スキー研修説明会(二・三年)
- 二七日(水) 私立専修学校推薦入試
- 委員会
- 一八日(木) ひまわりプロジェクト
- 二三日(火)・二四日(水)・二五日(木) 私立専修学校一般入試
- 二四日(水)・二五日(木) 保護者会(三年)
- 三〇日(火) 二月一日 スキー研修(二年)

表彰の記録



県中学生新人陸上競技大会
女子一〇〇mH 三位
税に関する作文
岡崎市長賞

理科作品展
入選

創造アイデアロボットコンテスト
東海北陸大会 三位
愛知県大会 優勝

みかわの子
入選

市主張コンクール
優秀賞

市作文コンクール
優良賞

市社会科作品展
入選

社会を明るくする運動作文
佳作

人権作文コンテスト
奨励賞

市学校給食メニューコンクール
優秀賞

葵が丘



感謝の気持ちを伝える言葉

二年学年主任 小林 恰司

言葉はコミュニケーションの中心であり、情報伝達や感情表現に重要な役割を果たす。その言葉の中で、「ありがとう」という言葉は感謝の気持ちを表現するために重要で、相手の善意や援助に対する尊敬を示す。さらに、漢字で「有り難う」と表記し、「困難の中に存在する」といった意味と解釈ができる。つまり、他人の親切や援助に感謝することで日常の困難や苦労の中に存在する価値を表現している。

昨年度、足を骨折して松葉杖での生活を余儀なくされた。今まで当たり前でできていたことができなくなり、不自由な生活を送った。そんな生活になったからこそ、生徒たちの心の温かさに触れた。さり気なく椅子や給食を用意してくれる生徒、先生、大丈夫？何かあったら言ってと気を遣ってくれる生徒。そんな生徒たちに、「ありがとう」と言葉で伝えることしかできなかった。優しい生徒たちに囲まれて幸せな毎日を送らせてもらっていることに感謝しかない。

感謝の言葉を使うことで自分自身も感謝の気持ちを強化し、幸福感を高めることができる。感謝の大切さは社会的なつながりや個人の幸福感に深い影響を与えるものだと考えている。